

令和3年度版

内容解説資料

NEW CROWN

 English Series

教師用指導書
Teacher's Manual

SDGs関連資料

NEW CROWNとSDGsを融合させた
新しい授業の提案

山本 崇雄 (新渡戸文化小中高等学校)

1. はじめに
2. SDGsとは
3. 学校教育とSDGs
4. NEW CROWNとSDGs
5. おわりに

【参考】

Think the Earth『未来を変える目標 SDGsアイデアブック』紀伊國屋書店, 2018.
TREE Inc., SDGs TV (<https://sdgs.tv/>)
国際連合広報センター (<https://www.unic.or.jp/>)

三省堂

NEW CROWN と SDGs を融合させた 新しい授業の提案



山本 崇雄 (新渡戸文化小中高等学校)

1 はじめに

SDGs という言葉は、日常の中でも耳にする機会が増えてきたという実感があります。教育界でも SDGs を授業に取り入れる実践をよく目にするようにもなりました。しかしながら、SDGs の認知度調査によると世界の中では、残念ながら日本の SDGs の認知度は高くはありません。*World Economic Forum の記事 (2019 年 9 月 23 日) によると、調査した 28 カ国中、日本の SDGs の認知度は最下位でした。このことに危機感を持つ先生方も多いのではないのでしょうか。

確かに、これからの教育を考える上で、SDGs は大切なキーワードになることは間違いありません。しかし、矛盾して聞こえるかもしれませんが、令和 3 年度版 NEW CROWN では SDGs そのものを題材

として取り上げているわけではありません。これは、直接 SDGs を「教える」ことよりも、題材を学ぶ中で、様々な気づきを引き出し、子どもたちの学びのベクトルが SDGs という窓を通し、社会課題に届いて欲しいという願いが根底にあるからです。

子どもたちが、主体的に学び、学びのベクトルをより良い世界を作る方向に伸ばし、行動していく当事者に育てていくという観点で、SDGs と NEW CROWN について述べていきたいと思います。

*世界経済フォーラム 2019 年 9 月 23 日 記事より
<https://www.weforum.org/press/2019/09/global-survey-shows-74-are-aware-of-the-sustainable-development-goals/>

2 SDGs とは



SDGs (Sustainable Development Goals=持続可能な開発目標) は、2030 年までに、先進国も新興国も途上国も、国も企業も NPO も、そして個人も、あらゆる思想や文化の違いを超えて協力し、より良い未来を作ろうと国連で決まった 17 の目標のことです。2015 年 9 月に国連サミットで採択された文書の原題は “Transforming our world : the 2030 Agenda for Sustainable Development” です。つまり SDGs は、世界を変革するという宣言のもの目

標であり、これまでとは異なる世界を前提とした行動が求められることが原題にはっきり示されています。Covid-19 の流行で、私たちの生活様式が根本から見直されているのと同じように、SDGs で示されている様々な問題を解決するには、世界を “Transforming” する必要があります。学校がよりシームレスに社会とつながるという点では、“Transforming our school” という視点も必要です。

3 学校教育とSDGs

日本財団が2019年9月下旬から10月上旬に行った「18歳意識調査」の結果は衝撃的なものでした。この調査では、インド、インドネシア、韓国、ベトナム、中国、イギリス、アメリカ、ドイツと日本の17~19歳、それぞれ約1,000人を対象に国や社会に対する意識調査が行われました。

この中で、「自分で国や社会を変えられると思う」と答えた日本の18歳は18.3%と全体の1/5にも達しませんでした。「国に解決したい社会課題がある」の回答も46.4%と他国に比べ30ポイント近く低い数字となっています。社会課題がよくわからないから、そもそも解決しようとも思わない、または社会課題は分かっているでも自分で変えられるとは思って

いないということでしょう。SDGsも同様かもしれません。そう考えると、学校現場は学びを社会課題につなげることができていないということで、この結果を重く受け止めなければなりません。これまでの日本の「学力テスト偏重型の教育」では、学びの目的が認知的な数値になってしまい、学びを社会につなげることが難しかったと思います。「Transforming our school」の大切な観点は、「学力テスト偏重型の教育」から脱却し、学校を社会につなげるということになります。SDGsは子どもたちを社会課題につなげる「窓」の役割を担うこととなりますので、学校教育の中でSDGsはとても重要なキーワードになるわけです。

SDGsを教えることの難しさ

学校教育の中でSDGsが大切なキーワードになればなるほど、SDGsを「教える」ことが目的になった実践が生まれてしまいます。SDGsが少し遠い存在に感じる子どもたちが、SDGsを自分ごと化するにはどうすればよいのでしょうか。

SDGsに関心があろうがなかろうが、気候変動やフードロスなどSDGsの諸問題は事実として実感することが多くなりました。近年の台風や豪雨は、日本各地に甚大な被害をもたらし、身近な現実として迫ってきます。2019年の台風19号による交通網、住宅、工場、農業などビジネスへの壊滅的な被害は、はっきりと目に見える形で私たちの生活に影響を与えています。被害が目に見えるものになっているにも関わらず、社会課題やSDGsへの関心が高まらないのはなぜでしょうか。

このことは、最近、SDGs関係の講演や記事から

感じられるある違和感と関連があるのではと思っています。それは、専門家が目を覆いたくような事実を訴え、逃れようのない現実が上から降ってくるような感覚です。生徒にとって気候変動の専門家というとちょっと離れた存在で、講演の内容は理解できても、当事者意識をすぐに持つことは難しいと感じます。

ですから、矛盾して聞こえるかもしれませんが、SDGsについて教えようとするほど、子どもたちはSDGsを自分ごと化するのが難しくなると言えるのです。教師の役割が、専門家と同じように、「情報を教える」で終わってしまったら、子どもたちを当事者にすることはできません。事実を伝えるだけでなく、問題を共に考え、解決への当事者になっていくプロセスを作ることが教師に求められているのです。

SDGsの合意形成のプロセスを教育に

SDGsは国連加盟国193カ国すべてが合意して決められました。たとえ戦争状態にあっても、宗教的な対立があっても、文化や人種が違って、一つの目標に合意できたのです。このプロセスこそ、子どもたちを当事者に変えるヒントです。

通常、国連の方針などの策定は、政府や国連の代

表、専門家などを中心に議論を進めて決められます。そこで決められた方針は、いわばトップダウンで私たちのところへ降りてきます。一方、SDGsは、約3年間かけて、オンライン調査を含め100万人以上が意見を出し、議論されました。つまり、SDGsはトップダウンで決められたものではないのです。

国連広報センターのウェブサイトによると、『持続可能な開発目標 (SDGs) の交渉プロセスには、市民社会をはじめ、民間セクターや市町村長などのステークホルダーも、これまでになく多数参加しました』『多くの若者も当初から、ソーシャルメディア・プラットフォームを通じて参加しました。国連の「マイ・ワールド」調査*には、全世界から延べ700万人を超える参加がありました』とあります。さらに、議論の主導的役割を果たしたと言われている国連オープンワーキンググループ (OWG) での議論はインターネットで公開されています。(<https://sustainabledevelopment.un.org/owg3.html>) さらに、OWG の 2nd セッション (2013 年 4 月実施) では、Twitter のアカウントが示され、誰でも OWG の参加者に質問をすることができました。

つまり、世界中の人々が、自由に意見を投げ、合意点をさぐりながら議論をし、ボトムアップで作られたのが SDGs なのです。この合意形成のプロセスこそ、生徒たちを SDGs につなげ、当事者にするために大切にしなければなりません。つまり、生徒たちが身近な「困った (問題)」を自ら「発見し」、「解決したいこと (目標)」を対話を通して合意形成していくプロセスを経験させていくことが SDGs を自分ごと化することにつながります。

* MY WORLD は市民一人ひとりの声を聴くためのグローバルな市民調査です。持続可能な開発目標 (SDGs) が策定される前に、およそ1,000万人の声の世界194カ国から寄せられました。(国連広報センター)

4 NEW CROWN と SDGs

- ① Languages around the World — ことばを使うことは、思いを伝えること
- ② Lives around the World — かかわることは、互いを認め合うこと
- ③ Think about the World — 考えることは、自分と向き合うこと
- ④ Learn about the World — 学ぶことは、自分の可能性を広げること

令和3年度版 NEW CROWN では、子どもたちが、題材から気づきを生み出し、深い学びになるように、上の4つを柱として題材を選定しています。

NEW CROWN では、SDGs を教材として扱っているわけではありませんが、題材を通して、子どもた

ちが様々な気づきを生み出し、より良い世界を作っていこうという SDGs 的な考えを深めてもらいたいと考えています。以下、NEW CROWN の主な題材と、そこから生まれる気づきから SDGs につながる例を見てみましょう。

① Languages around the World — ことばを使うことは、思いを伝えること

ことばを使うことは思いを伝えること。同時に、世界は使うことばによって作られます。SDGs の目指すのは、誰もが幸せに暮らせる世界ですから、ポジティブなことばで世界を作っていくことを体感してもらいたいです。ことばは自分の思いを伝える手段の一つに過ぎませんが、自分から発することばをどう使うかに意識を向けることが大切です。

1 年 Lesson 1 About Me

○関わりのある SDGs :

17 パートナリシップで目標を達成しよう

このレッスンの目的は、新しい友だちや先生との出会いを通じ、自分自身を伝えることや、相手に興味を持ち、お互いのことを知る喜びを感じることで

す。まずは、自分をよく知ることから始まり、他者との違いに気づき、お互いを支え合うことで、大きな力につながるイメージを子どもたちが持てる授業を目指しましょう。

例えば、自己紹介で、好きなものや得意なものを

発表します。それぞれの発表を聞き、共通点や違いに気づくようなメモをとるシートを作るとよいでしょう。表を見ると、お互いの共有点や違いがあるからこそ、集団は依存し合えることに気づくでしょう。

名前	自分との共通点	自分との違い	メモ
小林くん	いちごが好き	スポーツが得意	サッカー
吉田さん	なし	絵を描くのが得意	
酒井くん	漫画が好き	数学が得意	ドラえもん

<関連題材>

「あなたが形作る物語」(国連広報センター)

<https://youtu.be/pzNn6osJawg>

動画では、様々な人種や環境の違いが映し出され、「これは私たちの相互依存の宣言だ」と字幕が出ます。それは「あらゆる場所で、全ての人々の権利に敬意を払う約束」という意味です。そして、「誰も置き去りにしない」というSDGsの目標が語られます。

クラスの中の違いを、世界に視点を広げ、「誰も置き去りにしない」という概念は、強烈なメッセージとして子どもたちに残るでしょう。そして、「クラスの誰も置き去りにしない」ことを全員で合意する。この合意のプロセスこそ、SDGsの素晴らしい点なのです。

2年 Lesson 7 Rakugo Goes Overseas

○関わりのあるSDGs:

16 平和と公正をすべての人に

17 パートナリシップで目標を達成しよう

笑いはすべての人を笑顔にします。笑顔からは平和が生まれるでしょう。このレッスンでは、日本のユーモアと庶民の文化を世界に伝える大島希巳江さんの取り組みが紹介されます。

授業では、世界の笑いについて調べたり、実際に英語で落語に挑戦したりできるでしょう。クラスみんなが笑顔になることで、平和な世界につながるイメージを持つことができます。

また、若い世代を中心に、広い世代に受け入れられるお笑いの力を借りれば、伝えたいメッセージを多くの人に知ってもらうことができます。

<関連題材>

吉本興業のSDGsへの取り組み

<https://www.yoshimoto.co.jp/sdgs/>

よしもと芸人によるPR動画「SDGsについて考えはじめた人々」が話題を呼んでいます。国連広報センターの協力のもと、芸人たちがコンビの枠を超え動画を作っています。SDGsをより多くの人に届けたいという思いで、国連広報センターと吉本興業が協力したのです。お笑いの力を借りて、メッセージを届ける例として紹介してみたいと思います。

3年 Lesson 7 For Our Future

○関わりのあるSDGs: 17 ゴール全て

中学3年の最後のレッスンで、未来を語るスピーチをするのはどうでしょうか。この時期になればSDGsについても、理解が進み、それぞれの関心のある分野も異なってくるでしょう。そこで、自分の関心のあるSDGsゴールを多くの人に伝える動画を作成します。

動画の目的は、そのゴールを多くの人に知ってもらうことなので、スピーチのような型はあまり必要ありません。自由に動画を作成するとよいでしょう。個人でも、グループでも作成することができますし、英語を使って世界に発信することもできます。

<関連題材>

SDGsクリエイティブアワード(動画コンテスト)

<https://www.sdgs.world>

このコンテストには、以下のようなSDGs普及促進映像部門というのがあり、60秒という長さも取り組みやすいでしょう。英語で、行う必要はないのですが、世界に伝えることを意識して、英語で応募してもよいでしょう。

【2019年第2回要綱より】

部門①: SDGs普及促進映像部門

・より多くの人にSDGsを理解してもらえる映像を60秒以内で制作してください。

過去の受賞作品も見ることができるので、それらを見るだけでも、伝えたいことを形にし、世界に伝えていくイメージを持つことができます。ことばを使って、思いを伝え、世界を作っていく経験を疑似的でも体験することは貴重です。

② Lives around the World 一かかわることは、互いを認め合うこと

ここでの題材は、お互いの違いを認め合い、そこに「困った」が生まれたとき、助け合うことにつながるというメッセージが含まれています。そこに SDGs の観点を結びつけると世界的な社会課題につながっていきます。

2年 Further Reading 1 Houses and Lives

○関わりのある SDGs :

11 住み続けられる街づくりを

ここでは、モンゴルのゲルなどを取り上げ、住居という視点から、世界の国や地域と多様な文化に対する理解を深めていきます。「持続可能」という視点を入れると SDGs につながります。どのような街づくりをすると、持続可能な世界につながるか、様々な住居やそこの生活について学ぶ中で、気づきが生まれるとよいでしょう。

<関連題材>

「好みに採って食べていいよ」が街を変える

Incredible Edible Todmorden

<https://www.incredible-edible-todmorden.co.uk>

イギリスの小さな田舎町トッドモordenでは、至るところに食べられる植物が植えられ、「Incredible Edible (信じられないかもしれないけれど、好みに採って食べていいよ)」の看板が立っています。町には緑があふれ、野菜を通して会話が生まれ、観光客も訪れるようになったと言います。ちょっとしたアイデアで、持続可能な「住み続けられる街」ができる例です。

3年 Lesson 6 Imagine to Act

○関わりのある SDGs : 17 ゴール全て

このレッスンでは、発明家の想像力や行動力の具体例を読んで、新しいものを生み出すときに必要な要素について学んでいきます。実際に、SDGs の観点で、世界の誰か困っている人を救うアイデアを発表してもよいでしょう。

<関連題材>

Design for the Other 90%

<https://www.designother90.org>

世界の約 90%の人は、私たちが当たり前のように使っている、製品やサービスをほとんど使うことができない状況にあると言われてしています。プロジェクトでは「その他 90%」の人たちのために、ローコストで問題を解決するデザインを提案しています。SDGs を通して、世界の「困った」を解決するアイデアを考えるきっかけになります。

③ Think about the World 一考えることは、自分と向き合うこと

ここでの題材は、ことばや文化への関心を高め、多様な社会に生きる人々のアイデンティティを尊重する姿勢を養うことを狙いとしています。

1年 Lesson 8 Green Festival

○関わりのある SDGs :

12 つくる責任、つかう責任

このレッスンでは環境問題を考えるイベントを通して、身近な問題について考え、問題解決に向けた取り組みにつなげていきます。

例えば、身近な問題として、給食やコンビニなどの食品ロスの問題に目を向け、解決策を考えるなどからはじめてはいかがでしょう。身近な問題から、SDGs を通して、世界の食品ロスに視野を広げることができそうです。

<関連題材>

捨てるという概念を捨てる「テラサイクル」

<https://www.terracycle.com/ja-JP>

テラサイクルというグローバル企業は、ゴミをゴミと考えず、とことん活かそうと活動しています。リサイクルが難しいような制汗剤の容器を自転車にしたり、使用済みのペンから新しいペンを作ったりしています。取り組みは世界中に広がり、21 カ国、6,300 万人もの企業や個人が支援しています。

テラサイクルのウェブサイトには、いろいろなリサイクルのプログラムが掲載されています。これらのプログラムを利用して、クラスで好きなプログラムを選び、学校内でプロジェクトを始めてもよいでしょう。

④ Learn about the World —学ぶことは、自分の可能性を広げること

他教科等で学んできたことと関連のある題材を取り上げることで、より深い学びにつなげていくことができます。

2年 Lesson 3 Every Drop Counts

○関わりのある SDGs :

6 安全な水とトイレを世界中に

7 エネルギーをみんなに、そしてクリーンに

このレッスンでは、電気をを用いず、自然の仕組みを利用して水を集めることのできるワルカ・ウォーター・プロジェクトについて学び、自然との共生について考えていきます。

<関連題材>

発電によって生まれる ICT 教育 (SDGs.TV より)

<https://sdgs.tv/goal7/263.html>

ルワンダのある小学校では、生徒全員にパソコンが配られました。2年前に小水力発電所ができるまで、この地域には電気が通っていませんでした。しかし電気が通ったことで、夜に明かりをつけて勉強したり、インターネットで世界とつながりできるようになり、教育環境が飛躍的に向上したのです。教育の差にもつながるエネルギー問題を解決することで、教育の可能性が開けたことなどに注目させたいです。

3年 Lesson 5 I Have a Dream

○関わりのある SDGs :

10 人や国の不平等をなくそう

公民権運動を率いたマーチン・ルーサー・キング・ジュニアの生涯を通して、アメリカ社会と人権、平等、不平等について考えを深めていきます。

日本の中学生にとっては、半世紀前の人種差別を身近に感じられないかもしれません。しかし、彼の力強いスピーチには変化に富む現代社会を生き抜くヒントが詰まっています。その1つは「変化の波に対応する力」です。人種差別という考えの先にある、みんなが幸せになる世界を作っていく行動力は、変化の激しい今こそ必要な力。授業では、キング牧師の考えを SDGs などの社会課題に結びつけ、どう行動するかを考える活動につなげることができます。

<関連題材>

「誰が作っているの？」がファッション業界を変える
ファッションレボリューションジャパン

<https://www.fashionrevolution.org/asia/japan/>

2013年、バングラデシュの首都ダッカ近郊にあるビルが崩壊し、多くの衣料労働者が亡くなる事故が起きました。このビルには、ヨーロッパの大手ファッションメーカーが多く入っており、その安全管理や働き手の人権の扱いが疑問視されました。この事故を受け、世界各地でファッション産業を変革するためのグローバルキャンペーンが始まりました。

ファッションレボリューションは、ファッション業界のお金の動きを知り、どのように作られた服を買うべきか、消費者が自分で考えようという運動です。

様々な場面で、不当な差別がまだまだ存在すること。また、子どもたちにとっても身近な SNS などを使って、行動していきけることを知ることができます。

5 おわりに

NEW CROWN の題材と SDGs へのつながりを紹介させていただきました。ただ、これらはただの1例であって、本来、題材から様々な気づきを生むのは子どもたち自身であり、そこから、どの SDGs ゴールに結びつけ、視野を広げていくかは、子どもたちが選択に委ねるのがよいと考えています。

「このレッスンでは、この SDGs ゴールを教えよう」と型にはめ過ぎるのではなく、子どもたちが自

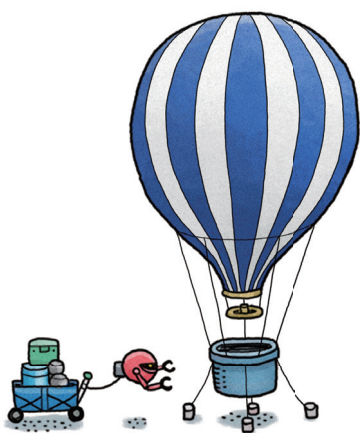
由に考える余白を持つことが重要だと考えます。

SDGs は一方的に、「教える」ものではなく、子どもたちの気づきを大切に、それを社会課題につなげる一つの手段として、扱っていくのがよいと考えています。NEW CROWN の豊かな題材から、子どもたちがどんな気づきをし、より良い社会につなげていく学びをするか、子どもたちと先生たちが共に学び合える空間を作るのにお役に立てれば嬉しいです。

令和3年度版 NEW CROWN ウェブサイト

この資料の内容に加え、編修趣意書、指導・学習内容一覧、小中連携資料、デジタル教科書（教材）の体験サイトなど、さまざまな情報を掲載しております。

<https://tb.sanseido-publ.co.jp/03ncpr/>



三省堂

〒101-8371 東京都千代田区神田三崎町2-22-14 TEL 03-3230-9411 (編集)・03-3230-9556 (営業)

大阪支社 〒530-0002 大阪市北区曽根崎新地2-5-3 TEL 06-6341-2177

名古屋支社 〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-21-31 協和丸の内ビル2F TEL 052-953-9211

九州支社 〒810-0012 福岡市中央区白金1-3-1 TEL 092-531-1531

札幌営業所 〒060-0042 札幌市中央区大通西15-2-1 ラスコム15ビル3F TEL 011-616-8722